

2019年11月14日

各 位

会 社 名 株式会社リミックスポイント  
 代表者名 代表取締役社長 CEO 小田 玄紀  
 (コード番号：3825)  
 問合せ先 取締役 CFO 廣瀬 卓也  
 (TEL：03-6303-0280)

### 特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、2020年3月期第2四半期連結累計期間の決算に関して、下記のとおり特別損失を計上することを決議いたしましたのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 内容

2019年7月12日付「当社子会社における仮想通貨の不正流出に関するお知らせとお詫び（第一報）」、2019年7月14日付「(開示事項の経過) 当社子会社における仮想通貨の不正流出に関するお知らせとお詫び（第二報）」及び2019年7月16日付「(開示事項の経過) 当社子会社における仮想通貨の不正流出に関するお知らせとお詫び（第三報）」でお知らせをしました通り、当社の連結子会社である株式会社ビットポイントジャパン（以下「BPJ」といいます）が運営する仮想通貨交換所において仮想通貨の不正流出（以下「本事案」といいます。）が発生したことから、2020年3月期第2四半期連結会計期間に3,670百万円の特別損失を計上する見込みであることを2019年7月24日付「当社連結子会社における特別損失の発生見込みに関するお知らせ」でお知らせいたしました。

本日、本事案に関連した2020年3月期第2四半期連結累計期間における特別損失の金額が確定したことをお知らせいたします。

#### 2. 本事案にかかる特別損失の内容

①	BPJのお客様預り分の流出仮想通貨調達費用等	2,069	百万円
②	BPJの自己保有分の流出仮想通貨被害額	963	百万円
③	海外の仮想通貨交換所に係る対応費用	214	百万円
④	初期対応及び再発防止策等に係る費用	133	百万円
⑤	BPJが保有する固定資産の除却損	246	百万円
⑥	BPJが保有する関連会社株式の評価損	62	百万円
合計		3,690	百万円

上記「④初期対応及び再発防止策等に係る費用」につきましては、2019年7月24日付「当社連結子会社における特別損失の発生見込みに関するお知らせ」で400百万円の発生を見込んでおりましたが、システムの再構築に係る支出を資産として65百万円計上したことと、100百万円程度の支出については第3四半期以降に行われることを見込んでいることもあり、当第2四半期連結会計期間では133百万円の損失となりました。

また上記「⑤BPJが保有する固定資産の除却損」につきましては、本事案によって将来の使用見込みがなくなった固定資産の除却を行ったため、除却損246百万円を計上することとなりました。

さらに上記「⑥BPJが保有する関連株式の評価損」につきましては、本事案によって、関連会社の実質価額が低下し、取得価額までの回復が十分な証拠によって裏付けられないことから、関連会社株式の評価減として62百万円を計上いたしました。

### 3. BPJにおける固定資産の減損損失の内容

上記2の特別損失の他に、本事案が発生したことにより、BPJの保有する固定資産（主にソフトウェア）の回収可能性が不透明な状態となりましたので、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、205百万円を減損損失として計上いたします。

なお、当社は、連結決算上、管理会計上の区分に従い固定資産のグルーピング単位を見直しており、BPJが計上した減損損失の戻し入れ処理を行っております。従って、BPJで計上した減損損失額が連結財務諸表に与える影響はありません。

### 4. BPJ株式評価損（個別）の内容

本事案により、当社が保有するBPJの株式の実質価額が低下したため、「金融商品に関する会計基準」に基づき、3,912百万円を関係株式評価損として計上いたします。

なお、当社の個別決算で計上される本評価損は、連結決算では相殺消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

### 5. 業績に与える影響と今後見通し

上記2の特別損失の計上による業績への影響等につきましては、本日公表の「2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」をご参照ください。

なお、2020年3月期の業績予想につきましては、BPJの営む仮想通貨交換業は、経済情勢や金融市場動向などを反映した仮想通貨市場の影響を受けることから、適正かつ合理的な業績予想の算定が困難であるため、公表をしております。今後、当社グループの収益においてBPJの収益比率が小さくなった時点、または仮想通貨を中心とする金融関連市場の変動要因が小さくなったと判断した際には業績予想を開示する方針であります。

以 上